

薬剤師臨床研修（卒後臨床研修）プログラム
運用マニュアル

青森労災病院薬剤部
2026 年 5 月 21 日作成

プログラムの作成にあたり

マニュアルは厚労省「薬剤師臨床研修ガイドライン」を参考に、より簡素かつ当院の実務に準じた項目を設定するため、オリジナルを作成した。

研修の構成は、(1) プロフェッショナリズム、(2) 資質・能力、(3) 研修方略より構成し、(1) と (2) は概略評価 (レベル) のみとし、(3) は到達度で評価することとした。

評価シート及び評価票は、日病薬ホームページのお知らせに令和 8 年 1 月 13 日に掲載された“薬剤師臨床研修 (卒後臨床研修) 推進事業のご案内【令和 8 年度事業開始】”の「薬剤師臨床研修ガイドラインについて」(令和 6 年 4 月 8 日 日本病院薬剤師会 「薬剤師臨床研修ガイドラインについて」) を変更なく使用することとした。

初版作成にあたり

2026 年 5 月 21 日

青森労災病院 薬剤師臨床研修マニュアル・評価ツール一式

本マニュアルは、厚生労働省の「薬剤師臨床研修ガイドライン」および「薬剤師臨床研修実施要領」に基づき、青森労災病院における薬剤師の臨床能力向上と、現場での運用性を重視した標準的な研修体制を構築するために策定されたものである。当院を「研修病院」、地域の連携薬局等を「研修協力施設」として位置づけ、組織一丸となって質の高いジェネラリスト薬剤師を育成する。

本マニュアルは、新人薬剤師教育研修実施体制を定めた本プログラムと評価シートより構成する。

目次

1.新人薬剤師の教育研修プログラムの目的.....	4
2.新人薬剤師の教育研修プログラムの対象者と心構え	4
3. 指導・支援体制	4
4.卒後研修管理委員会の設置	5
5.臨床研修連絡協議会	6
6.教育研修プログラムのスケジュール	6
7.新人薬剤師への教育研修内容と到達目標と評価方法.....	6
8. トラブルおよびハラスメント対応	10
9.教育研修プログラムの実施記録の保管	11

1. 新人薬剤師の教育研修プログラムの目的

- ・ プロフェッショナリズムの習得: 医療の担い手としての倫理観を磨き、患者の利益を最優先する利他的態度を身につける。
- ・ 実践的スキルの確立: 頻度の高い疾患に対し、薬学的根拠に基づき適切に対応できる基本業務スキルを完遂する。
- ・ チーム医療の実践能力: 薬学の視点を ICT、NST、AST 等のチーム医療に反映させ、他職種と協働して患者アウトカムに貢献する。
- ・ 社会的役割の自覚: 病院および地域医療における薬剤師の使命を理解し、社会的責任を果たせる能力と人格を養う。

2. 新人薬剤師の教育研修プログラムの対象者と心構え

青森労災病院の職員として新規採用した免許取得直後の薬剤師を対象とする。新規採用した薬剤師が免許取得直後ではない場合は、薬剤師としての経験年数や職歴等を考慮して適応する。研修対象者は、研修にあたって実践した業務に責任をもたなければならない。

3. 指導・支援体制

新人薬剤師教育研修プログラムの指導体制および支援体制を以下の通り定める。

(1) 教育研修管理者

教育研修管理者は病院長とし、卒後研修管理委員会や研修プログラム責任者の意見を踏まえ、研修施設全体で研修を行う体制を支援し、研修プログラムが円滑に行われるように配慮する。

(2) 教育研修プログラム責任者

教育研修総括責任者は薬剤部長とし、新人薬教育研修プログラムを作成、統括し、卒後研修管理委員会に研修者の研修目標達成状況を報告（様式 3 及び到達度記録）する。また定期的に新人薬剤師と個別の面談を実施（様式 1）し、教育研修プログラムの過程を把握すると共に、個々のキャリア形成を促す。

教育研修プログラム管理者や研修指導薬剤師から意見を踏まえ、卒後研修管理委員会に研修プログラム等の改訂について審議を依頼する。

教育研修プログラム管理者不在時にはその任務を代行する。

(3) 教育研修プログラム管理者

教育研修プログラム管理者は薬剤副部長とし、教育研修プログラムの進捗を把握すると共に、教育研修プログラム実施責任者を総合的に支援し、教育研修プログラム責任者へ報告する。

教育研修プログラム責任者不在時にはその任務を代行する。

(4) 教育研修プログラム実施責任者

教育研修プログラム責任者は主任薬剤師とし、教育研修プログラムの進捗を管理し評価するとともに指導薬剤師を指導する。また、新人薬剤師、教育研修指導者および教育研修に係わる者の精神的負担や体調管理に配慮し、教育研修プログラム管理者へ報告するとともに、必要に応じ助言やフィードバックを行う。

新人薬剤師の教育研修の継続が困難となった場合は、対応を検討した上で教育研修プログラム管理者へ報告する。

(5) 教育研修プログラム指導薬剤師

教育研修プログラム指導薬剤師は、新人研修プログラム修了者もしくは5年以上の実務経験者とし、実務の指導を行う。

教育研修プログラム指導薬剤師は、教育研修プログラムの理念・基本方針に沿った、EBMに則った科学的指導を心掛けるとともに、研修者の良き相談者となるよう努める。指導内容および評価とその結果を新人薬剤師へフィードバックし、業務内容の変化等に伴い教育研修プログラムの見直しや中止が必要な場合は、教育研修プログラム管理者へ提案する。

(6) メンター

臨床経験2年以上の若手薬剤師とし、教育研修プログラム指導薬剤師とともに新人薬剤師の精神的サポートや私生活を含めた相談に応じるとともに、必要な場合は、教育研修プログラム実施責任者へ報告する。

4. 卒後研修管理委員会の設置

卒後研修管理委員会は委員長を副院長とし、教育研修プログラム管理者、教育研修プログラム管理責任者及び医師、看護師、事務局員からなる卒後研修管理委員会を設置し、年1回開催する。教育研修責任者の要請により随時開催することができる。

卒後研修管理委員会は、教育研修総括責任者等から進捗状況等の報告を受けるとともに以下の事項を審議し、公表する。

- (1) 研修プログラム・カリキュラム
- (2) 研修指導体制
- (3) 研修に関わる施設・設備
- (4) 研修受け入れ数
- (5) 研修進捗状況報告（様式3）（到達度記録）
- (6) 教育研修プログラム修了判定

5.臨床研修連絡協議会

臨床研修連絡協議会を薬剤部管理者および主任薬剤師により構成される主任会に設置し、教育研修に係るプログラムの策定および教育研修の実施等について評価・判定するとともに、研修協力施設との連絡を図る。

6.教育研修プログラムのスケジュール

(1)教育研修プログラムの期間

教育研修プログラムの期間は、原則3年間とする。但し研修者の進捗に照らし、短縮・延長することができる。

(2)居残り勤務スケジュールの判定

教育研修プログラム開始1ヵ月目に調剤室と注射室の教育研修プログラムの進捗状況から、平日の居残り業務スケジュールを臨床研修連絡協議会で判定する。なお、免許取得直後でない新人薬剤師の場合は、薬剤師としての経験年数や職歴等を考慮し、判定時期を早める

(3)日当直入り等の勤務スケジュールの判定

教育研修プログラム開始4ヵ月目に調剤室と注射室の教育研修プログラムの進捗状況から、休日日勤・夜勤の勤務に入るスケジュールを臨床研修連絡協議会で判定する。なお、免許取得直後でない新人薬剤師の場合は、薬剤師としての経験年数や職歴等を考慮し、判定時期を早める。

(4)教育研修プログラムの進捗の確認と評価

教育研修プログラム開始6ヵ月ごとに評価表(様式3)にて確認と評価を行う。3以上を合格とする。2未満を不足と判定し期間を1ヵ月延長する。

(5)教育研修プログラムの修了の判定

教育研修プログラム開始36ヵ月目に教育研修プログラムがすべて完了し、到達目標が達成できたことを確認の上、教育研修プログラムの修了を判定(様式4)する。なお、免許取得直後でない新人薬剤師の場合は、薬剤師としての経験年数や職歴等を考慮し、修了時期を早める。

7.新人薬剤師への教育研修内容と到達目標と評価方法

次表の通り研修内容と到達目標を定め、効率的かつ確実な資質・能力習得を図るとともに、評価方法を定め、研修者と評価者の認識の乖離を回避する。

研修内容及び到達目標はプログラム実施期間内であっても、卒後研修管理委員会が必要と認める場合は変更を可能とする。

(1)プロフェッショナリズム

医療人としての根幹をなす能力を、評価票Ⅰを用い、研修終了時に「期待される状態」をベースに、半期ごとに4レベルで評価する。

観点	視 点
社会的使命	社会的使命を自覚し、説明責任を果たしつつ、限りある資源や社会の変遷に配慮した公正な医療の提供及び公衆衛生の向上に努める。
利他的態度	患者の苦痛や不安の軽減と福利の向上を最優先し、患者の価値観や自己決定権を尊重する。
人間性尊重	患者や家族の多様な価値観、感情、知識に配慮し、尊敬の念と思いやりの心を持って接する。
自己研鑽	自らの言動及び医療の内容を省察し、常に資質・能力の向上に努める。

(2) 資質・能力

臨床現場での具体的な判断能力を、薬学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）に示された薬剤師として求められる10の基本的な資質・能力の自己評価を、研修終了時に「期待される状態」をベースに、評価票Ⅰを用い、4レベル7段階で評価する。研修終了時で期待されるレベル3とする。

観点	視 点
医療における倫理性	臨床面や研究面、教育面において、倫理原則や関連する法律を理解した上で個人情報に配慮する、患者及びその家族から同意をとる、インシデントを説明するなど、さまざまな意思決定の場面で、軽率に振る舞うことなく熟考した上で対応する。
薬学知識に基づく実践能力及び問題解決能力	医薬品全般にわたる知識を身に付け、他の医療従事者並びに患者及びその家族に対応する。 調剤、医薬品の管理、医療安全等いずれの業務においても、科学的根拠を理解し、知識・技能を身に付ける。 薬学知識を臨床現場で適切に活用するため、最新の薬学、医学及び医療に関する知識を獲得し、根拠に基づく医療（EBM）の考え方と手順を身に付けた上で、できるだけ多くの臨床経験を積み、自らが直面する臨床上の課題の解決を図る。
服薬指導等に関する技能と患者ケア	服薬指導に関する技能を磨き、患者の苦痛や不安等に配慮した服薬管理を行う。
コミュニケーション能力	患者の心理・社会的背景を踏まえて、患者や患者家族と共感的で良好な関係性を築く。
チーム医療の実践	医療従事者をはじめ、患者や患者家族に関わる全ての人々の役割を理解し、連携を図る。

医療の質と安全管理	患者にとって良質かつ安全な医療を提供し、医療従事者の安全性にも配慮する。
社会における医療の実践	医療の持つ社会的側面の重要性を踏まえ、各種医療制度・システムを理解し、地域社会と国際社会に貢献する。

(3) 研修の方略

研修項目を以下とし、評価シートを用い、4半期ごとに自己評価および指導者評価を行う。

また包括的な評価を、評価票Ⅱを用い半期ごとに行う。目標到達値、開始時期および研修期間は方略ごとに定めることができる。

業務項目	研修目標	研修項目
2-1 オリエンテーション	社会人かつ機構職員として遵守すべき規範を習得する。	オリエンテーション
		情報セキュリティーとコンプライアンス
2-2 調剤業務	個別化医療を実現するための調剤業務の遂行とそれに必要な知識とスキルを習得する。	調剤業務（注射薬業務を除く）
		注射調製業務
		院内製剤
		居残り・日当直勤務
2-3 医薬品の供給と管理業務	医薬品の供給と管理体制を理解し管理業務を実践する。	医薬品の供給と管理
2-4 医薬品情報管理業務	医薬品情報を収集・評価し、整理・加工して提供するスキルを習得する。	医薬品情報管理業務
		治験・臨床研究業務
2-5 病棟業務	入院患者と直接接することにより、患者の病態に応じた服薬指導やフォローアップ、コミュニケーションのスキルを高める。薬物治療の観点からチーム医療に参加し、他職種との関わり方を学ぶとともに、薬学的見地からの見解を発信する。持参薬の服薬状況等の聴取を通じた薬物治療に関する問題点（ポリファーマシー等）の抽出、服薬計画の立案、入院患者への服薬指導等を通して薬学的知見に基づく積極的な介入や提案を実践する。退院後の適切な薬物治療の継続のため、退院時カンファレンスへの参加、情報提供書の作成・提供等により、地域医療（多職種）との連携を実践する。	病棟薬剤業務／薬剤管理指導業務
		チーム医療

2-6 在宅訪問 (在宅医療・介護)	自宅や施設で生活する患者を訪問して服薬指導や薬剤管理を行い、在宅医療や介護に関する各種支援制度や地域包括ケアシステムにおける他職種の役割を学ぶとともに、薬剤師としての役割を果たす。	在宅訪問
2-7 医療安全	医療の質を担保し、患者及び医療従事者にとって安全な医療を提供できる。特に、医薬品の安全管理体制の確保のため、薬剤師として主体的な役割を果たす。	医療安全
2-8 感染制御	医療現場に応じて感染症を発生させない環境整備や感染予防を実践する。感染症発生時（新興・再興感染症を含む）における感染拡大防止のための対応を図るなどの感染制御に努める。	感染制御
2-9 地域連携	病院と薬局の連携や地域の医師、看護師等との多職種連携等、地域連携の必要性を理解し、地域における患者中心の医療の充実に努める。	地域連携・在宅医療
2-10 無菌調製	適切な無菌的混合調製を理解し実践するスキルを身に付ける。	無菌調製
2-11 がん化学療法	がん化学療法のレジメン管理や抗がん剤の調製、副作用や疼痛評価、支持療法薬の提案、投与計画への参画など基本的技能・知識を身に付ける。	がん化学療法
2-12 TDM	血中濃度測定に関する基本的知識や手順を理解し実践する。薬物特性と患者個々の状態に適した薬学的管理を理解し、指導薬剤師の指導の下、投与設計・処方提案ができる。	薬物血中濃度モニタリング
2-13 ICU・小児・産婦人科・精神科の薬物治療	スペシャルポピュレーションとして、薬物動態の異なる小児・産婦人科の薬物治療、重篤度の高いICUや問診が中心となる精神科の薬物治療など、困難度が高い薬物治療を理解する。	ICU・小児・産婦人科・精神科及び急性中毒の薬物治療
自己研鑽	科学者かつ医療従事者であることを自覚し、絶えず知識と技術のアップデートを実践する。	臨床研究および生涯研修

(4) 成果物による代替評価の活用

評価の客観性向上と効率化のため、以下の成果物をもって評価項目の判定に代える。

成果物の種類	最低必要数	対応する主な評価項目
症例報告書	2件	病棟業務、個別最適化、モニタリング、エビデンス構築
DI 照会回答記録	5件	DI 活用、情報提供、自己研鑽

プレアボイド報告	3 件	処方監査・疑義照会、医療安全の実践、多職種連携
----------	-----	-------------------------

(5) 教育研修管理部門と担当内容

教育研修管理体制は3部門とし、各管理者に教育研修プログラム実施管理者をあてる。

表1：管理部門と担当内容

管理部門	担当内容（ガイドライン）
セントラル業務	2-1 オリエンテーション 2-2 調剤業務 2-3 医薬品の供給と管理業務 2-4 医薬品情報管理業務 2-7 医療安全 2-10 無菌調製
がん化学療法	2-11 がん化学療法
臨床業務	2-5 病棟業務 2-6 在宅訪問（在宅医療・介護） 2-8 感染制御 2-9 地域連携 2-12 TDM
研修者	2-13 ICU・小児・産婦人科・精神科の薬物治療 13.（自己研鑽）臨床研究 14.（自己研鑽）生涯研修

8. トラブルおよびハラスメント対応

研修者が安心して研鑽に励めるよう、以下の体制とフローを遵守する。

【ハラスメントの定義（11 類型）】

以下の行為を厳禁とし、周知・啓発を徹底する。

1. パワー 2. セクシャル 3. モラル 4. アカデミック 5. アルコール 6. ソーシャル 7. マタニティ 8. パタニティ 9. ハラスメント・ハラスメント 10. カスタマー 11. ジェンダー

【トラブル対応フロー】

① 初期相談

メンターまたは設置済みの外部相談窓口へ連絡する。

② 事実確認

担当者が中立的な立場で当事者から状況を把握する。研修者の不利益防止を最優先する。

③ 共有と協議

内容をプログラム実施責任者および卒後研修管理委員会と共有し、対応を協議する。

④ 解決・改善

環境調整、再発防止策の実施。重大なハラスメントの場合は対策委員会での判定と懲戒等を検討する。

9.教育研修プログラムの実施記録の保管

教育研修プログラムで使用した新人薬剤師の教育チェックリスト、薬剤部長面談記録、夜勤入り等の勤務スケジュール判定、教育研修プログラム修了判定等の実施記録を、教育研修プログラム修了後から5年間保管する。

薬剤師臨床研修マニュアル 参考文献一覧

1. 国・行政の指針

- 薬剤師臨床研修ガイドライン（令和6年3月 厚生労働省医薬局総務課・医政局総務課）
 - 臨床研修の到達目標、研修の方略、達成度評価の標準的な方法が示されています。
- 薬剤師臨床研修の手引き（令和6年3月 厚生労働省）
 - ガイドラインの内容を正しく理解し、円滑に実施するための具体的な留意事項がまとめられています。
- 薬剤師臨床研修実施要領
 - 研修の管理体制、募集手続き、研修者の処遇など、事務的な運用ルールが規定されています。

2. 職能団体の関連資料

- 医療機関における新人薬剤師の研修プログラムの基本的考え方（令和6年1月 一般社団法人日本病院薬剤師会）
 - 新人が一定期間研修を受けることの有用性と、プログラム検討の際の基本指針が示されています。
- 新人薬剤師の研修プログラム（具体的事例）（令和6年6月 一般社団法人日本病院薬剤師会）
 - 京都大学、千葉大学、神戸市立医療センター、倉敷中央病院などの実践事例が紹介されています。

3. 研究報告書・専門資料

- 令和元年～3年度 厚生労働行政推進調査事業費補助金「薬剤師の卒後研修カリキュラムの調査研究」研究報告書（研究代表者：山田清文）
 - 現在のガイドラインの基盤となった調査研究報告です。
- 令和6年度 薬剤師臨床研修の効果的な実施のための調査検討事業 報告書（厚生労働省補助事業）
 - 研修施設の受入体制整備や人的負担の課題、効果検証の在り方が調査されています。
- 中小病院における薬剤師臨床研修評価の効率化指針
 - 中小病院が自院の機能に合わせて評価項目を絞り込み、負担を軽減するための具体策が示されています。

4. 教育・関連ガイドライン

- 薬学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）
 - 卒前教育とのシームレスな連携を図るための基本となる資質・能力が定義されています。
- 医師臨床研修指導ガイドライン－2023年度版－

- 薬剤師のプロフェッショナルリズムの評価指標を策定する際の参考とされています。

受講及び発表が望まれる学会及び講習会一覧

【研修会等】

○院内（必須）

必須研修（全出席）

○日本病院薬剤師会（任意）

- ・ 感染制御専門薬剤師講習会（＊必須）
- ・ 放射性医薬品取り扱いガイドライン講習会
- ・ 妊婦・授乳婦薬物療法認定薬剤師講習会
- ・ 精神科薬物療法認定薬剤師講習会
- ・ がん専門薬剤師集中教育講座
- ・ 医療情報システム講習会
- ・ 医薬品安全管理責任者等講習会
- ・ 高齢者薬物療法に従事する薬剤師のための研修会
- ・ 慢性疼痛緩和のための医療用麻薬適正使用推進講習会（厚労省）
- ・ CRC 養成研修会

○青森県病院薬剤師会

新人研修会（必須）

○八戸地区薬剤師会会員発表会

新人研修会（必須）

薬学例会（任意）

【学術発表】

○院内

医薬品安全管理研修（１回、必須）

○院外

- ・ 労災病院薬剤部会東北ブロック会（１回、必須）
- ・ 日本医療薬学会（１回、任意）
- ・ 日本病院薬剤師会東北ブロック会（１回、任意）

○青森県病院薬剤師会会員発表会（任意）

○八戸地区薬剤師会会員発表会（任意）

様式1

教育研修プログラム管理者面談記録

研 修 薬 剤 師 名 : _____

面 談 日 : _____ 年 _____ 月 _____ 日

面 談 記 録 :

様式2

日当直等の勤務スケジュール判定

新 人 薬 剤 師 名：_____

勤務スケジュール判定日：_____年_____月_____日

勤務スケジュール：

20XX 年 4 月 入職

20XX 年 7 月 夜勤補助の研修

20XX 年 8 月 休日の半直日直の研修

20XX 年 9 月 夜勤補助入り

20XX 年 10 月 休日の半直日直入り

20XX 年 11 月 夜勤入り(休日)

20XX 年 12 月 夜勤入り(平日)

コメント等：

様式 3

教育研修管理者 殿

教育研修プログラム評価表

新 人 薬 剤 師 名 : _____

教育研修プログラム開始日 : _____ 年 _____ 月 _____ 日

教育研修プログラムの進捗の確認と評価 :

到達度記録	評 価 (レベル)	判 定
調剤業務	1 1-2 2 2-3 3 3-4 4	☐ 終了 ☐ 延長 ☐ 未実施 ☐ その他 (
医薬品の供給と管理業務	1 1-2 2 2-3 3 3-4 4	☐ 終了 ☐ 延長 ☐ 未実施 ☐ その他 (
医薬品情報管理業務	1 1-2 2 2-3 3 3-4 4	☐ 終了 ☐ 延長 ☐ 未実施 ☐ その他 (
病棟業務	1 1-2 2 2-3 3 3-4 4	☐ 終了 ☐ 延長 ☐ 未実施 ☐ その他 (
在宅訪問 (在宅医療・介護)	1 1-2 2 2-3 3 3-4 4	☐ 終了 ☐ 延長 ☐ 未実施 ☐ その他 (
医療安全	1 1-2 2 2-3 3 3-4 4	☐ 終了 ☐ 延長 ☐ 未実施 ☐ その他 (
感染制御	1 1-2 2 2-3 3 3-4 4	☐ 終了 ☐ 延長 ☐ 未実施 ☐ その他 (
地域連携	1 1-2 2 2-3 3 3-4 4	☐ 終了 ☐ 延長 ☐ 未実施 ☐ その他 (
無菌調製	1 1-2 2 2-3 3 3-4 4	☐ 終了 ☐ 延長 ☐ 未実施 ☐ その他 (
がん化学療法	1 1-2 2 2-3 3 3-4 4	☐ 終了 ☐ 延長 ☐ 未実施 ☐ その他 (
TDM	1 1-2 2 2-3 3 3-4 4	☐ 終了 ☐ 延長 ☐ 未実施 ☐ その他 (
ICU・小児・産婦人科・精神科の薬物治療	1 1-2 2 2-3 3 3-4 4	☐ 終了 ☐ 延長 ☐ 未実施 ☐ その他 (

年 _____ 月 _____ 日

新人薬剤師の教育研修プログラムが修了したと判定する。

教育研修プログラム責任者：_____

様式 4

教育研修管理者 殿

教育研修プログラム修了判定

新人薬剤師名：_____

教育研修プログラム開始日：_____年_____月_____日

教育研修項目の達成状況：

項目	達成(年月日)	備考
2-1 オリエンテーション	☐ (/ /)	
2.注射調製業務	☐ (/ /)	
2-2 調剤業務	☐ (/ /)	
2-3 医薬品の供給と管理業務	☐ (/ /)	
2-4 医薬品情報管理業務	☐ (/ /)	
2-5 病棟業務	☐ (/ /)	
2-6 在宅訪問（在宅医療・介護）	☐ (/ /)	
2-7 医療安全	☐ (/ /)	
2-8 感染制御	☐ (/ /)	
2-9 地域連携	☐ (/ /)	
2-10 無菌調製	☐ (/ /)	
2-11 がん化学療法	☐ (/ /)	
2-12 TDM	☐ (/ /)	
2-13 ICU・小児・産婦人科・精神科 の薬物治療	☐ (/ /)	
自己研鑽		

年 月 日

新人薬剤師の教育研修プログラムが修了したと判定する。

教育研修プログラム責任者：_____